慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	編集後記
Sub Title	
Author	奥田, 敦(Okuda, Atsushi)
Publisher	慶應義塾大学湘南藤沢学会
Publication year	2017
Jtitle	Keio SFC journal Vol.16, No.2 (2016.) ,p.189- 189
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	特集 新・ 地方創生
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=0402-1602-0189

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

編集後記

つい先ごろ「研究と勉強はどこが違うのですか」という質問を、ようやく SFC 生の自覚らしきものが芽生えてきた 1 年生から受けた。「学ぶという点ではどちらも共通するが、既存の研究の成果を前提に、そのフロンティアを拡げ、あるいは、さらに研究の成果を積み上げるのが研究であるのに対し、勉強は、すでに誰かによって積み上げられた蓄積をなぞる行為にすぎない」と説明してみた。

したがって、学際的な学びから常に新しいものを作り出そうとする SFC は、まさに研究の場なのである。その際、問題 - 発見 - 解決という研究のスタイルは、新規性と結びつきやすく、研究というもののハードルを一気に下げてくれる。研究がみんなに開かれるのだ。

それにしても、いろいろな問題があるものだと、今号の収録論文を読み返してみてそう思う。地方創生における、田園への回帰、公と民の連携、都市部のコミュニティプラットフォームをインターローカルに開くこと、地域と大学の連携。また、人民法院の調停と仲裁の機能の重視による、中国共産党の強靭な一党体制の維持、母親の自信のなさと子供の自尊心のなさの連関。さらに、プロバイオティクスは小児アトピー性皮膚炎の維持・改善効果があるとは一概に言えないこと、日本人クライアントとセラピストの間にこれまでの「処罰恐れ型」でも「許され型」でもない、「先取り型」の罪悪感が見出されること。

こうしてみると、勉強と研究の違いを見極める手っ取り早い方法が、とりあえず、『KEIO SFC JOURNAL』の本号に、そしてバックナンバーに収録されている論文を読んでみることなのかもしれない。高校の「勉強」から卒業し、SFC に入って「研究」を始めようとする、新入生には特におススメだ。

ところで、この 3 月をもって、本誌の副編集長を長年にわたって務められた西岡啓二先生（環境情報学部教授）と、本誌の兄弟誌『KEIO SFC REVIEW』の担当幹事を、これもまた長期にわたってお務めいただいた堀茂樹先生（総合政策学部教授）が、定年退職を迎えられる。

西岡先生には、本誌の編集において、ご専門である数学関係のほか、学際的で査読に困難を伴う論文の編集委員をいくどとなく引き受けていただいた。堀先生には、学生のレビュー部員の数がなかなか増えない状況の中で、学生たちの才能とやる気を上手に引き出していただき、継続的な刊行を支えていただいた。

お二人の先生の『KEIO SFC JOURNAL』あるいは『KEIO SFC REVIEW』の発行にかかわるご貢献とご尽力に対し、この場を借りて、心より感謝申し上げたい。

奥田 敦
KEIO SFC JOURNAL 編集長